

1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 4月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	1071100091
法人名	有限会社 ふるさと
事業所名	有限会社 ふるさと
所在地	群馬県安中市鷺宮1956-1 (電話) 027-384-0367

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年3月27日

【情報提供票より】(20年 3月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 4人, 非常勤 4人	常勤換算 4.6人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~31,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円

(4) 利用者の概要(3月 10日現在)

利用者人数	9名	男性	7名	女性	2名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	4名	要介護4		2名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 77歳	最低 67歳		最高 86歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	アミヤ医院・今井歯科医院・みやぐち医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者・職員は、高齢者が本当に好きという人達の事業所であり、他の施設や病院などで受け入れ困難という認知症の方や全盲の方などを受け入れている。リハビリのために巧緻運動(ペットボトルに穴を開け、ビー玉などを箸で入れるなど)を採り入れ用具を作成し、職員が見守り個々に合った方法を実施している。また、動物の好きな入居者が、猫や犬を飼い世話することが、アニマル療法となっている。入院中の入居者への洗濯物、日用品の調達、医師の説明、家族の面会送迎などの支援にも努めている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題の地域への理解については、運営推進会議で啓発を行い地域のための担当職員を決め企画していくことになった。共用空間の自由に過ごせる場所の確保については、場所の確保が難しいので入居者同士を外へ連れ出す等で対応している。職員と入居者が一緒に食事を摂る機会を設ける事については、食事は一緒に摂らないが誤嚥予防の見守りや声かけをしている。研修報告書ファイルについては、整理されている。すべての課題について、改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、管理者・職員が集まり検討し、理解を深めて日常の業務実践に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、入居者の日常生活等の報告、事業所の活動等の情報提供、地域のイベント等の情報交換、災害時の地域の協力体制等について、地域とホームの関係より密にするため協議している。地域の方の演芸訪問や、野菜畑の見学などについても話し合いが行われ実施している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情受付窓口と担当者を定め、苦情受付機関と共に明示し説明をしている。玄関に意見ポストを設け、説明と連絡先を掲示している。要望などは通常の来所の時に聞いている。食事のきざみ食について形を崩さないようにという要望があったが話し合いの上、本人の希望によりきざみ食にする等、要望に取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>敬老の日のイベントや小学校の運動会等に招待されて参加したり、地域の夏祭りや花火大会、裏の城山公園での行事や神社の豆まき等にも参加している。また、清掃事業などにも積極的に参加し交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	これまでの理念を見直し、地域で安心した継続性のある暮らしを目標とし地域との繋がりを表現した、事業所独自の理念を作り上げることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
2. 地域との支えあい				
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		

外部		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議開催の案内はしているが、日程が合わず市の参加はなかった。今後は都合を聞いて、文書などで案内をする予定である。会議以外でも市の職員との交流はあまり行われていない。	○	事業所の運営やサービス向上には市との協力関係は欠かせない。今後は、さらに事業所から積極的な情報提供を行うと同時に、継続的に行き来する機会をつくり、市と共にサービスの質の向上に取り組むことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に詳しく健康状態や暮らしぶりを報告しており、イベントの写真などを貼ったアルバムを閲覧出来るようにしている。面会に来られない家族には、定期的に電話連絡をしたり、家に訪問し報告している。金銭管理については物品の購入毎に連絡し許可を得ており、金銭については立替でレシート精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談の窓口については入所時の書類に記載しており、家族や本人に説明している。玄関には意見ポストがあり、ポストの説明と連絡先が一緒に掲示してあるが苦情を受けたことはない。要望などは通常の来所の時に聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職が無いようにしているが、職員が替わる場合は、新しい職員のことを早く入居者に理解してもらうように、利用者全員に声をかける等の工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	群馬県グループホーム連絡協議会、群馬県認知症支援センター、地域支援センターセミナー等の研修に参加しており、職員全員が勤務内で参加できるよう調整している。研修内容は職員会議で報告され書類はファイルに綴られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会のレベルアップ研修として他のグループホームに研修参加していたが現在は少なくなっている。今後独自のネットワークを作り勉強会をして行くことを考えている。	○	他グループホームへの見学や相互研修会での事例検討等を通して、サービスの質を向上する意見や経験を活かすような勉強会を検討をされたい。

外部		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と本人に詳しくサービス内容や提供方法を説明し、雰囲気を見てもらっている。笑顔と声かけを大切にして、握手やスキンシップの機会を持つように努力し、戸惑いのないように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が職員にマッサージをしたり、ツボを教えてくれたりしている。また、ドライブや散歩をしながら、道や花について教えてくれる等、入居者から学ぶことも多く、一緒に過ごしながら楽しみ、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話できる入居者からは希望を聞いたり、出来ない入居者には表情や日々の様子から推察し、出来るだけ暮らしに反映させるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の変化を申し送りノートに記入し、アセスメントシートにまとめている。家族の面会時に聞いた要望とアセスメントシートを用いて一日一回の職員会議で話し合い、計画に反映している。また、立案した計画は家族にサインをもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は見直しをしている。状況が変化した時は、職員会議で、職員それぞれが入居者の状態で気づいた意見を出して話し合い、家族と相談して現状に即した計画作成をしている。		

外部		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の事情や身体状況によって、移送やリハビリをしている。家族の送迎、受診支援、入院届けや入院中の洗濯物の整理等、柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと連携している病院では、日常的な受診の他に、緊急時の対応等もしてくれる。本人が定期的にかかっている病院についても、継続して受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望は入所時や面会時に確認し、入所時には承認同意書を交わしている。希望内容については申し送りノートを活用して職員全員が把握出来るようにしている。過去にも看取りはしてきたが、今後は病状の段階毎に記録が残せる書類を作成し、サインをもらうようにしていく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	状況によってイニシャルを使うなど、他の入居者に分からないように配慮している。記録簿などは、事務所の収納棚で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	対話できる入居者是对話で、対話できない入居者には要望等が分かるまで時間をかけて待つ等対応している。一人ひとりのペースを尊重し、食事が終わるのを見守り、個別に歯磨きの声かけをするなど焦らせる声かけや態度をしていない。		

外部		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや要望を聞いてメニューに反映している。嚥下機能や食事動作の低下が見られる入居者には、嚥下機能を見ながら食事形態を工夫している。下膳などは手伝ってもらい一緒にしたり、適度な声かけをして食事を楽しめる工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回を原則としているが、予定以外でも本人の希望があれば出来るだけ対応している。入浴を嫌がる入居者は無く、喜んで入浴しているが、体調不良などの場合は、その日の体調に合わせて入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭きや下膳、新聞取り、洗濯たみ等を、自分の役割と思い、楽しみや張り合いをもって日々行っている。また動物の好きな入居者が、猫2匹、犬2匹等を飼い世話することにより、アニマル療法となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑の野菜を見に行き、農家の人との会話を楽しんだり、外気浴や城山公園の散歩、温泉での足湯などの外出を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は、施錠の弊害については理解しているが、認知症で介護度の高い方や帰宅願望が強い方が多いので施錠している。この件については家族も同意している。入口付近が交通面で危険があり、また、過去に無断外出して不明となり探したことがあるため慎重になっている。	○	入居者の保護や安全についてあらゆるの方法を考えて鍵をかけないケアに取り組むよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の災害避難訓練、消火器の点検、消防による防火指導、災害時の職員連絡網の掲示等、防火責任者を設けて防火に努めている。また、運営推進会議で地域に協力をお願いしている。今後、煙探知機を消防立会いで設置することになっている。		

外部		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭食を中心にした一週間の献立を考えている。近所からの差し入れの材料を活かしたり、旬の物を献立に採り入れながら、栄養バランスに片寄りはないか配慮をしている。食事は本人の好みにより無理のない量にしている。また、水分の摂取量、食事は職員が毎日記録し情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓の開閉を職員が行い換気に心掛けている。共用空間である食堂では耳の聞こえない入居者にサインボードを使い、さりげなく対応するなどの工夫をしている。また、庭先にはつくしや季節の草花があり季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には衣装ケースや机、椅子、寝具類などの馴染みのものが持ち込まれ、また、手作りの紙の作品や写真などが飾られ居心地良く過ごせるようにしている。		